

(67) が1期3年で後進に道を譲った。

後継組合長は、めむろが専務理事の宇野克彦氏。年齢は47歳10カ月（現在）で、道内ではJA道北なよろの東野秀樹組合長の47歳7カ月に次いで2番目の若さ。40代の組合長は道内でこの2人だけだ。

本別町は佐野政利氏（65）、幕別町は前川厚司氏（60）で、めむろと同様、専務理事からの昇格。うらほろは梅田武専務理事も退任し、理事の林常行氏（54）がトップに就いた。本別町では、畜産を営む小笠原愛さん（43）＝町仙美里＝が新しく理事に就任した。

JA道中央会によると、全道108JAのうち今年の総会、総代会で11JAの組合長が交代した。

地区別では釧根が3人、オホーツクが1人、空知が2人、宗谷が1人で、十勝の4人が最も多かった。



前川 厚司
JA幕別町組合長



宇野 克彦
JAめむろ組合長



佐野 政利
JA本別町組合長



林 常行
JAうらほろ組合長

有塚組合長会会長 勇退へ かわにし組合長続投求める声も

十勝地区農協組合長会の会長で、JA帯広かわにし組合長の有塚利宣氏は11月17日までに、JA組合長職を2020年6月の任期満了に伴い勇退し、組合長会と農協連合会系統の役員も同様に今任期限りで退任する意向を固めた。一方で、地元の富士地区を中心に組合長職の続投を求める声が出ており、有塚氏は「地元の意向であれば尊重せざるを得ない」としている。



有塚氏は1931年、旧川西村（現帯広市）生まれ。93年に旧帯広川西農協（現JA帯広かわにし）組合長に就任し、98年から十勝地区農協組合長会会長。2006年旭日双光章（農業振興功労）を受章している。

前JAグループ北海道役員推薦会議委員長として農協系統役員の実質的な選考にかかわる有力者。2003年には旧帯広市農協との合併を実現、管内JAのネットワーク化、特産のナガイモの海外展開などに尽力した。農業基盤整備の中央陳情では先頭に立つなど影響力を発揮してきた。

政治関係では故中川昭一氏の十勝連合後援会の会長を務め、近年は米沢則寿帯広市長の連合後援会長、今春の道知事選で当選した鈴木直道氏の十勝後援会「活力あふれる北海道の未来を実現する会・十勝」の会長を務めた。

有塚氏本人は、中央政界における北海道・十勝農業の政治力の低下を招かないよう自身の人脈を生かして手を打っているとし、周囲に勇退の意向を示唆していた。

◆かわにし組合長続投を求める声

今任期限りで十勝地区農協組合長会会長とJA帯広かわにし組合長を勇退する意向を示している有塚氏をめぐって、地元の富士地区を中心に組合長職の続投を求める声が出ている。有塚氏は翻意を求める声が地域内外にあるとし、「地元の意向であれば尊重せざるを得ない」としている。

ある組合員は「川西にはナガイモ工場やかんがい排水など重要事業が進んでおり（組合長を）続けてほしい」とする。組合長は、各地区から推薦された理事らで互選して決める。任期は6月まで。

※内容は2019年11月17日、2020年2月16日付の記事を元に編纂しました